

### 1066 <sup>[14C]</sup>YM-09151-2 による正常人・痴呆症例の脳内ドーパミン D<sub>2</sub> 受容体定量

樋口真人, 藤原竹彦, 伊藤正敏, 井戸達雄, 岩田 錬, 四月朔日聖一, 瀬尾信也, 渡部浩司(東北大サイクロ) 山口 智, 目黒謙一(東北大老年内科) 谷内一彦(東北大第一薬理)

健常成人及び痴呆症例(血管性痴呆・Alzheimer 病・Alzheimer 型老年期痴呆)に, <sup>[14C]</sup>YM-09151-2 を静脈より投与し, 脳内の放射能分布の経時変化を PET を用いて測定した。線条体・後頭葉に設けた関心領域の放射能データを元に, 線条体 D<sub>2</sub> 受容体結合能の定量解析を行った。解析には 4-コンパートメントモデルに基づく採血データを必要としない, 新しい手法を使用した。

この結果を元にして, D<sub>2</sub> 受容体結合能の加齢との関係, 痴呆症例各型における結合能の変化や痴呆の重症度との関係を検討した。又, 我々の解析法の妥当性に関しても, 従来の手法と比較を行いながら, 考察を加えた。

### 1067 <sup>11C</sup>-NMPBによる血管性痴呆患者の脳アセチルコリン受容体測定

吉田毅, 一矢有一, 桑原康雄, 佐々木雅之, 福村利光, 増田康治(九大放), 一宮厚(同精)

ムスカリン性アセチルコリン受容体(mACh-R)結合薬剤である<sup>11C</sup>-NMPB(NMPB)を用い血管性痴呆患者(VD)の脳mACh-Rを測定した。対象は, 広範皮質梗塞のないVD 6例(70.6±7.2歳, 男性5例, 女性1例)で, 健常人6名(68.3±2.7歳, 男性4名, 女性2名)を対照群とした。データ解析は, 静注90分後の小脳に対する脳各部位の集積比で行った。4例では脳循環代謝も測定した。NMPBは, 頭頂葉皮質でやや低下する傾向がみられたが有意差はなかった。これに対し脳循環代謝は全般的に低下していた。この乖離の原因としては, 受容体と脳循環代謝との違いの他に, 対小脳比を用いるNMPBの評価法も関与していると考えられた。